

樽前山

○ 火山活動評価：やや活発な状況

A火口およびB噴気孔群では高温の状態が続いています。火山活動は引き続きやや活発な状況です。火口周辺では注意が必要です。

活発	第101回予知連(2005.6.21)											
やや活発	による評価以降の活動状況											
静穏												
	2005				2006				2007年			

○ 概況

・ 噴煙および熱活動（図 2）

北海道立地質研究所が28日に行った現地調査では、赤外放射温度計¹⁾により測定したA火口の温度は約470℃（前回2007年5月：約540℃）で高温の状態が継続していました。また、B噴気孔群の噴気温度も高温の状態が継続していると考えられます。

なお、A火口およびB噴気孔群の噴煙高度は50m以下で推移し、噴煙活動は静穏な状況が続いています。

・ 地震活動（図 2、図 3、表 1）

火山性地震は1日あたり0～8回と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で経過しました。求まった震源は山頂ドーム直下のごく浅い所およびドーム北西側の浅い所に分布し、これまでと特に変化はありませんでした。火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動（図 4、図 5）

GPS 連続観測では火山活動によると思われる変動は観測されませんでした。

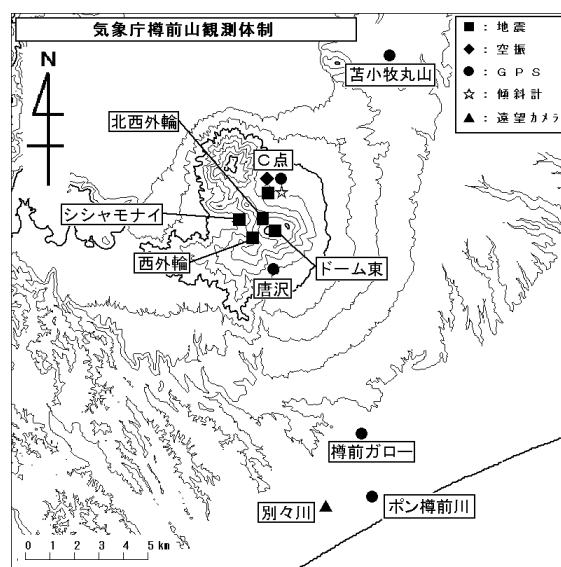


図 1 樽前山 火山観測点配置図

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

※ 資料は気象庁のほか、独立行政法人産業技術総合研究所、北海道立地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

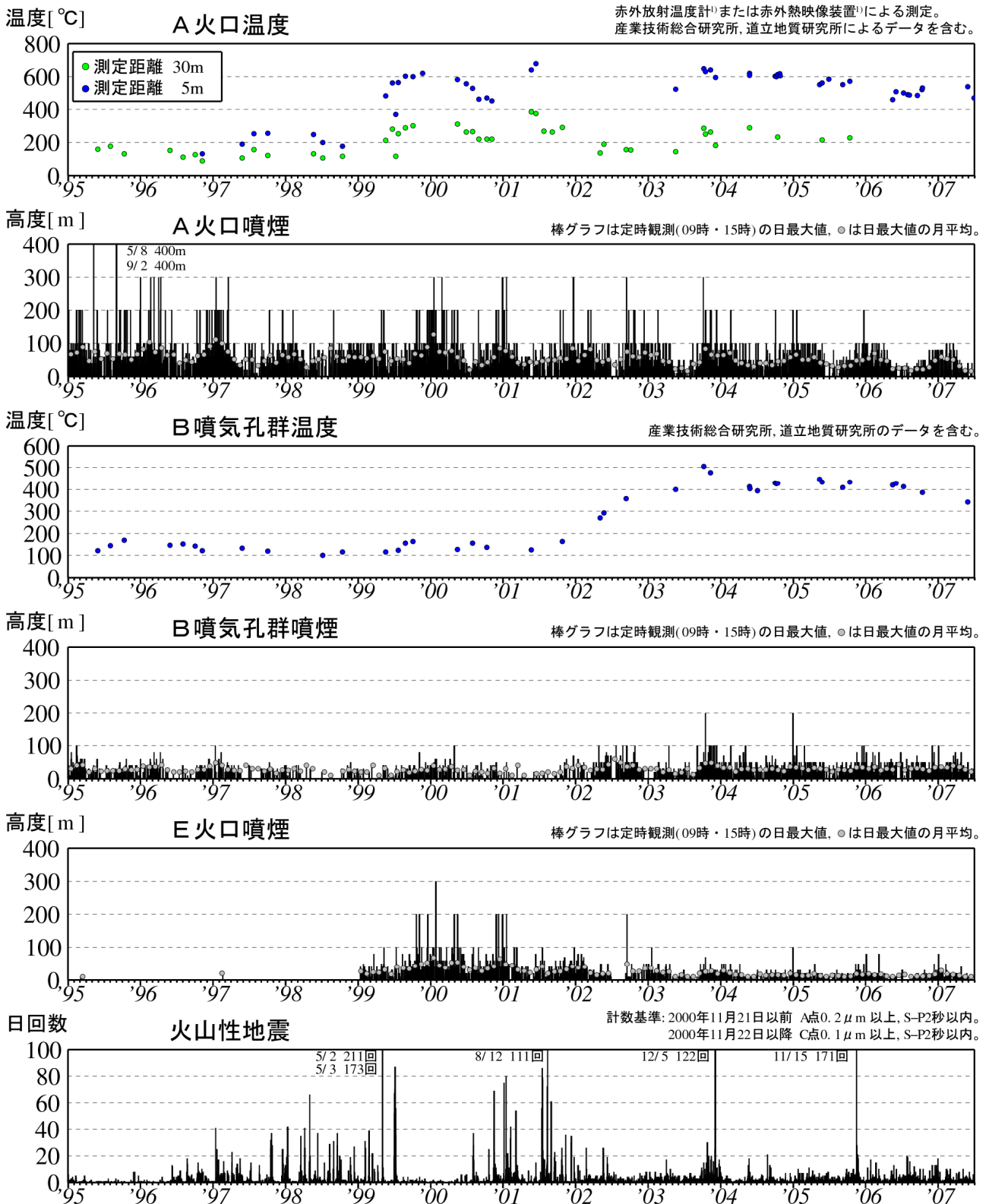


図 2※ 樽前山 最近の火山活動経過図（1995 年 1 月～2007 年 6 月）

- ・ A 火口の温度は 1999 年から、B 噴気孔群の火口温度は 2002 年以降高温の状態が続いています。
- ・ 地震回数は 1996 年以降増減を繰り返しています。2005 年 11 月に一時的に地震が増加しましたが、その後は少ない状態で経過しています。

表 1 樽前山 地震・微動の月回数 (C点: 図3の TARC)

2006~2007年	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
地震回数	105	95	69	49	28	123	42	87	40	49	56	45
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

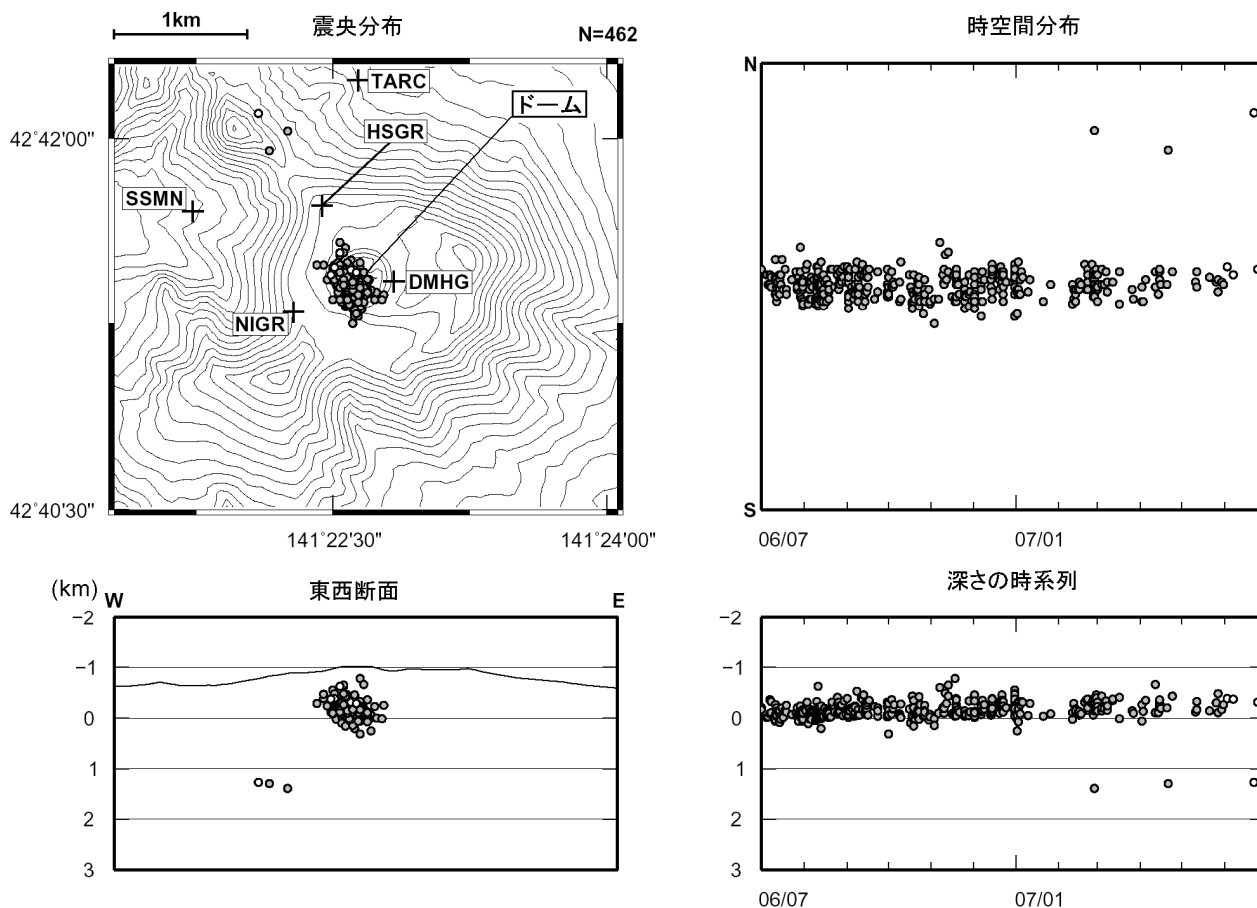


図 3 樽前山の震源分布図 (2006年7月1日~2007年6月30日、+印: 地震観測点)

○印は今期間 (2007年6月) の震源

●印は前期間までの11ヶ月間 (2006年7月~2007年5月) の震源

- ・ 前期間までの震源は山頂ドーム直下のごく浅い所 (山頂から深さ0.5~1km付近) に集中し、ドームの北西1.5km付近の浅い所にも分布しています。今期間に求まった震源もこの領域内に分布しています。

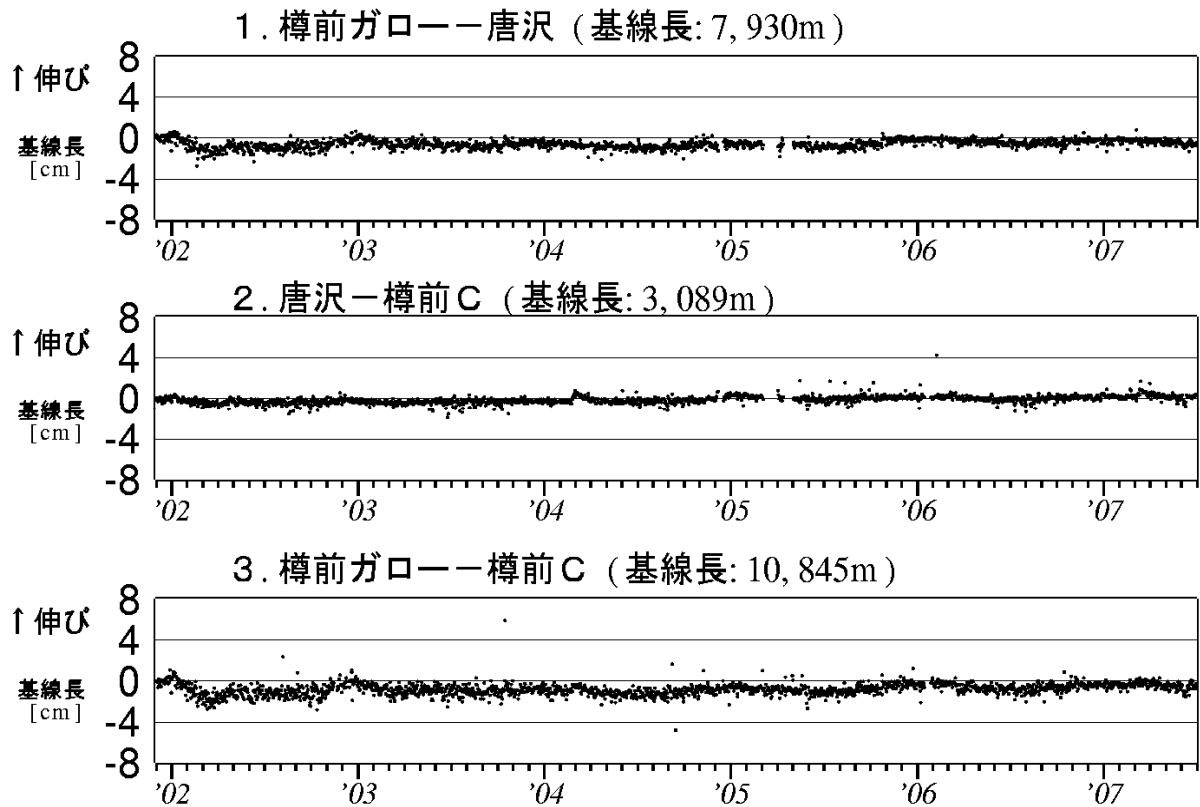


図 4 樽前山 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 12 月～2007 年 6 月)
 グラフの空白部分は欠測
 図 4 の 1～3 は、図 5 の GPS 基線①～③に対応しています。

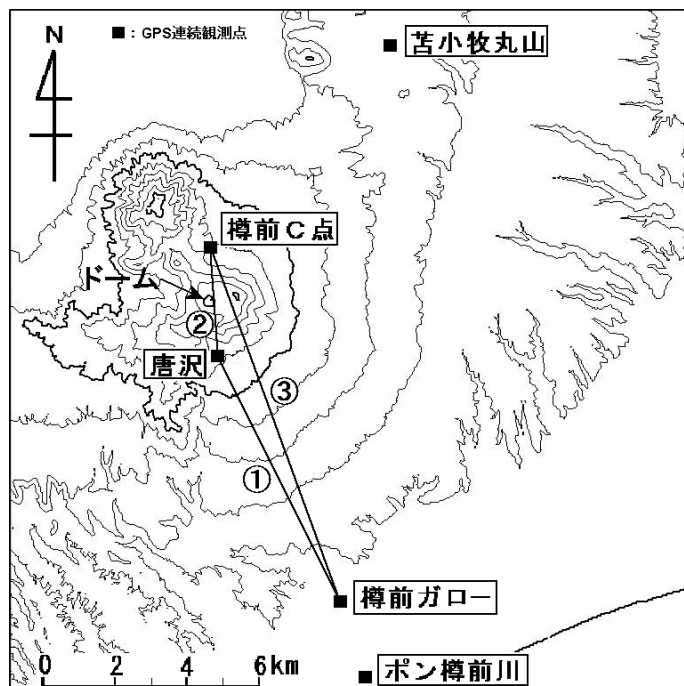


図 5 樽前山 GPS 観測点配置図